



## 覚えざるに

道元禅師の教えをまとめた『正法眼藏隋聞記』の中に、「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる」という言葉があるそうです。

雨が降っていれば傘をさしたり、蓑を着たりしますが、霧なので濡れることはないだろうと思い、そのまま歩きます。しかし、しばらくすると、知らないうちに衣はしつとりと濡れているという意味です。

さらに道元禅師はこれに続けて、「良き人に近づけば、覚えざるに良き人になるなり」と言っています。すなわち、良い人と一緒にいると、知らないうちに自分も良い人になっているというのです。

教育の営みには大きく2つの方向性があると考えます。1つは教え導くことです。どうするべきなのか、なぜそうしなければならないのかをきちんと教え、理解を促し、行動を誘っていきます。

もう1つは感化していくことです。子どもを取り巻く環境を整え、よりよい環境の中で生活するうちに、自然と望ましい生活習慣等が身につくようにしていきます。

前述した道元禅師は、まさに感化の大切さを教えているように思います。家庭や学校で明るいあいさつが交わされていれば、自然とあいさつができるようになります。靴箱の靴やトイレのスリッパがいつもきれいで並んでいる環境で生活すれば、それが当たり前のこととしてできるようになります。

そのような望ましい環境を整えたいという意味から、本年度も「あいさつ」「無言清掃」、「聞く姿勢」等に力を入れてきました。担任による学級指導だけでなく、児童会の活動等ともタイアップして取り組んできました。

その結果、朝の校門でのあいさつはまだどの域ですが、校舎内でのあいさつは向

上が見られました。まだ無言とまではいきませんが、掃除中の話し声はほとんどしなくなりました。また、授業や集会活動では、教員や友だちを見て話を聞く姿勢が身についてきました。

十分に望ましい環境が整ったとは言えませんが、少しずつ向上してきています。この望ましい環境が整い、継承されていけば、それが学校の文化になっていきます。

道元禅師も述べているように、子どもたちを感化していく上で一番大切な環境は、私たち大人です。私たちの言葉、行動に子どもたちは学び、感化されていきます。

1年間を振り返り、私たち大人が常に我が身を振り返り、学び続けることの大切さを改めて感じているところです。

保護者・地域のみなさま方、本校の教育活動について、ご理解・ご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。

## 新4年生の学級編成について

現在、県教育委員会の教育施策により、小学校では1学級の定数が35人と規定されています。本校の現3年生はこれまで2学級編成でしたが、令和6年度中の転出等によって35名となりましたので、この規定によって新4年生は1学級編成となります。保護者のみなさまには、何卒ご理解の上、今後とも変わらぬご支援・ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

## 4月当初の主な行事予定

7日（月）この日まで「学年はじめ休業」

8日（火）入学式

9日（水）始業式

10日（木）給食開始

11日（金）交通安全教室

17日（木）全国学力調査〔6年〕



## <確かな学力>

- ◎基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ◎読解力・表現力を高める指導法の工夫



## <豊かな心>

- ◎認め合い、高め合う集団の育成
- ◎人権教育・道徳教育の充実

学校教育目標

**自ら学び、考え、  
行動できる子の育成**



## <健やかな体>

- ◎基本的な生活習慣の定着
- ◎運動習慣の定着、体力の向上
- ◎安全意識の醸成と危機回避能力の育成



たより・ブログ